

卵アレルギーとインフルエンザワクチン

早くもインフルエンザワクチンの接種を希望される患者さんが来院されます。

インフルエンザワクチンの効果は個人個人でかなり異なり、効果持続期間もかなり個人差があります。それは過去のインフルエンザに罹った回数や、接種回数などに左右されるからです。小児に2回接種した場合はその効果は2週間から、5か月後まで持続するといわれています¹⁾。成人に1回接種した場合はそれより有効期間が短くなるのが想定されますので、まだインフルエンザが流行していない現在、やや早いのでは？と説明しています。

インフルエンザワクチンは安全なワクチンですが時に質問されるのが、卵アレルギーです。インフルエンザワクチン添付文書上にも卵アレルギーをもつ患者さんは「接種要注意者」となっています。その理由は、ワクチンの製造に鶏卵を使っているため、微量ですが卵の成分がワクチンの中に残存するからです。そのため、卵アレルギーの人がインフルエンザワクチンを接種すると強いアレルギーが起こるという認識を医療従事者のみならず患者さんも持っています。その結果、卵アレルギーの患者さんは接種を控えようとする傾向があります。しかし、アメリカのCDCはこの関係は近年きわめてまれなことで、卵アレルギーとインフルエンザワクチンアレルギーとは区別されなければならないと発表しています²⁾。重症のアレルギーおよびアナフィラキシー反応はインフルエンザワクチンの成分に反応して生じていますが、そのような反応は極めてまれで、成人におけるワクチン副反応報告システムによると、1990～2005年にインフルエンザワクチン接種後にアナフィラキシーによって死亡したのは僅か4例であり、これらの反応を引き起こしたワクチン成分については不明とされています²⁾。

現在、培養基材に孵化鶏卵を用いているワクチンには、インフルエンザワクチン（発育鶏卵）と黄熱ワクチン（ニワトリ胚細胞、SPF 鶏卵）です¹⁾。しかし、現在のワクチン製造技術は高度になり精製技術の進歩により卵白成分の混入は極めて微量で数 ng まで減少しており、これはWHO 基準よりはるかに少なくなっています¹⁾。

2011年ACIP（Advisory Committee on Immunization Practices）は以下のような勧奨をしています。

アレルギー反応なく、軽く調理した卵(スクランブルエッグなど)を食べることができる場合⇒通常接種可。

卵もしくは卵を含んだ食物を食べた後に、経験したのは蕁麻疹のみの場合⇒通常接種し、30分間要観察。

卵もしくは卵を含んだ食物を食べた後に下記のような症状を経験した場合

- ・心臓血管系変化(血圧低下など)
- ・呼吸苦(喘鳴など)
- ・胃腸症状(吐き気/嘔吐など)
- ・エピネフリンを必要とした反応
- ・救急治療を必要とした反応

⇒専門医に紹介

したがって ACIP の勧奨に従うとよほど重症でなければ通常の接種は問題ないと考えられます。

食物アレルギーの有病率は小児で 4.5%、全年齢層で 1~2%と推定されており³⁾、そのなかでも鶏卵の原因が一番多いと考えられています。しかし、鶏卵アレルギーは加齢とともに軽快しやすく成人になるとその頻度はかなり低下し、果物や魚類によるものが主となってきます。卵アレルギーは實際上、脱感作が成立しているのに必要以上に恐れているひとも存在するかもしれません。

保護者や接種医が強い不安を抱く場合に、接種液を生理食塩水で 10 倍希釈した液を用いて皮内テストを行うこともあります。この検査は偽陽性あるいは偽陰性反応を呈することがあるため、結果が陽性であっても必ずしもアレルギー症状が惹起されるわけではありません。また、陰性であっても予防接種を安全に接種できるという保証にもなりません¹⁾。

卵アレルギーだからといってワクチン接種をさほど怖がる必要はありませんが、ワクチンに含まれる他の成分によるアレルギー反応を起こすことがありますので、強いアレルギー症状を有する者には、問診を含む予診を十分に行い、接種医師が可否を判断します。

平成 28 年 11 月 4 日

参考文献

- 1) 予防接種に関する Q&A 集 一般社団法人日本ワクチン産業協会 岡部信彦監修
2015
- 2) CDC watch インフルエンザワクチンと卵アレルギー
<http://www.medicon.co.jp/views/showbin.php?id=48&type=73&.jpg>
- 3) 浅海 智之ら：食物アレルギー：いつどのように対処するか．日内会誌 2016；105；
1966 - 1973 .